

医療維新

シリーズ 「医学部卒後10-15年目の医師たち」～JCHO編～ ▶

医療維新

後期研修1年目、“レガシー”を学ぶ日々◆番外編「研修医」

開設70周年、歴史ある人気病院でスタッフにも恵まれて

オピニオン 2019年3月16日 (土)配信 JCHO熊本総合病院 外科 木下 翔太郎



木下 翔太郎 Shotaro Kinoshita
JCHO熊本総合病院 外科

【略歴】大分県出身。2015年熊本大学医学部を卒業し、国立病院機構熊本医療センターで初期研修を修了。2018年4月から熊本県第2の都市、八代市の中心の官公庁街に位置するJCHO熊本総合病院の外科で後期レジデントとして研鑽開始。

【所属学会・取得資格等】日本外科学会、日本消化器外科学会、日本胃癌学会、日本消化器病学会、日本癌治療学会。

⇒JCHO尾身理事長が語る「研修医」はコチラ

私は2018年4月から熊本県八代市にある熊本総合病院で外科の後期レジデントとして日々鍛錬を積んでいます。病院が一流ホテル並みに綺麗であり指導もしっかりしているという、非常に環境が素晴らしい中で働くことができ、幸せを感じる毎日を送っています。医師になったきっかけは他職種の方などから時々質問されますが、「なりたい」と強く奮い立たせるような大きなイベントがあったわけではありません。ただし、外科医であった父の影響は強いと思います。医師になることを強要されたことはありませんでしたが、年齢を重ねるにつれ、父を敬う気持ちは大きくなっていき、父のようになりたい、と考え始め、医師を志すことにしました。

当院には、「喉から手が出るほど熊本総合病院で働きたい」という方が多く集まります。外科系の人気も高く、私の大学同期や初期研修仲間も当院での研修を希望していましたし、多くの先輩も当院での研修を勧めてくださいました。今度は私が、後輩に強く当院を勧めているところです。

当院が誇る“レガシー”とは

人気がある大きな理由の1つは、病院を中心とした街づくりを実践している点であり、島田信也院長が“レガシー”と呼ぶ医療環境です。今年当院が健康保険八代総合病院として開設してから70周年。この地の医療を守り抜いてきた歴史があります。歴史ある病院に集う数多くの優秀なドクターたちだけでなく、看護師・技師らスタッフは、能力が高く、優しい方々ばかり。後期レジデントとして学ぶ私たちにとっても非常に働きやすい環境です。



当院の入り口付近



さらに6年前には新病院をオープンし、「100年長寿」をコンセプトにした御影石の外観や、世界三大銘木の一つで高級建材でもあるマホガニー材を用いたこだわりの内装、患者さんが雨に濡れないように設計されている「ひさし」などの強いこだわりが詰め込まれています。一流ホテルを彷彿とさせる建物の雰囲気は「今後のまちづくりの主役に」という、次の100年に向かう強い気持ちも感じさせます。患者さん本人や家族の普段使用するトイレや椅子・テーブル等の細部にも気が配られており、当院が患者さん一人一人を想う愛情をひしひしとすることもできます。

私たち後期レジデントにとって特に不可欠な要素である症例数や頼れる指導医に關しても、文句なしです。当院の外科は病院長、副院長、外科部長、医長2人、後期レジデント3人の8人での勤務を基本に、消化管・肝胆膵・呼吸器・乳腺等全ての領



筆者

域の手術を担います。臍頭十二指腸切除術25例などの大手術も含む全身麻酔手術は年間650例超のペースで行っています。術野高解像度映像システムや最新の内視鏡システム等の設備も極めて充実しており、設備的にも充実した指導を受けられます。今年度、消化管領域および泌尿器科領域でのda Vinciも導入し、さらに手術体制を強化。図書室には蔵書やジャーナルも多数揃えており、文献検索に関するネット環境の充実によってアカデミックな面でも何不自由なく過ごすことができます。

慢性的な赤字から大幅な黒字へ改革

過去において当院は慢性の赤字体質から存続の危機に陥った時期もあったそうですが、現在は、職員皆で築き上げてきた努力により大幅な黒字を出す病院に生まれ変わっています。そして今春からは、不採算に加えて熊本大地震のために廃止が決まった八代市立病院のベッドを地域包括ケア病棟として受け入れることが決まり、病床数400床と大規模病院の仲間入りすることにもなっております。当院の歴史については今回割愛させていただきますが、我々のお洒落なホームページに詳細を掲載しておりますので、ぜひとも一度読んでいただければ幸いです。

私たちは今後も、日々質の高い医療を行いながら、「今、医療はまちづくりにも貢献しなければならぬ」を病院の信念として、「まちなか病院」という考え方を核としたレガシーを引き継ぐ新しい八代のまちづくりも目指しています。

なかなか新しい手術や手技をすべて完投できないなど、思い通りにできない自分自身に腹立たしさを覚えることもしばしばですが、そのような過程を踏みながら毎日少しずつ成長しているようにも思います。これからも素晴らしい環境の整った当院で日々努力していき、質の高い医療を行っていく所存であります。



外科チームのみなさんと(前列中央左が島田院長、後列右から2人目が筆者)

番外編「研修医」記事一覧

- ・ 医学部再受験、有機化学の研究者から転身
- ・ 目標は「ハイブリッド脳神経外科医」
- ・ 研修医生活後は離島診療へ
- ・ 2年目研修医が語る憧れ
- ・ 後期研修1年目、“レガシー”を学ぶ日々

⇒JCHO尾身理事長が語る「研修医」はコチラ

シリーズ 「医学部卒後10-15年目の医師たち」～JCHO編～ ▶